

ゴールデンウィーク中の家畜防疫対策強化について

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催を控えたゴールデンウィーク中、海外悪性伝染病の病原体が日本国内に侵入するリスクが特に高くなります。また、国内においても、豚熱・鳥インフルエンザの発生リスクが高く、警戒の継続が必要です。

【家畜伝染病の発生状況】

- ・豚熱（CSF）：CSF ワクチン接種農場での発生例が続いており、発生予防のため衛生対策強化が必須。
- ・高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）：今シーズン全国で 52 事例発生。依然、国内で野鳥から HPAI 遺伝子が検出されています。
- ・アフリカ豚熱（ASF）：中国、韓国や北朝鮮等の近隣諸国で発生。2021 年 2 月にはマレーシアでも発生を確認。動物検疫所の検査でも違法に持ち込まれた豚肉製品 95 事例から ASF 遺伝子を検出。今月初めには、台湾海岸に漂着した豚の死体から ASF ウイルス遺伝子を検出。
- ・口蹄疫（FMD）：2011 年以降我が国で発生は確認されていないが、中国では、先月 0 型の発生を確認。

～ 家畜飼養者のみなさまへ 以下について徹底願います～

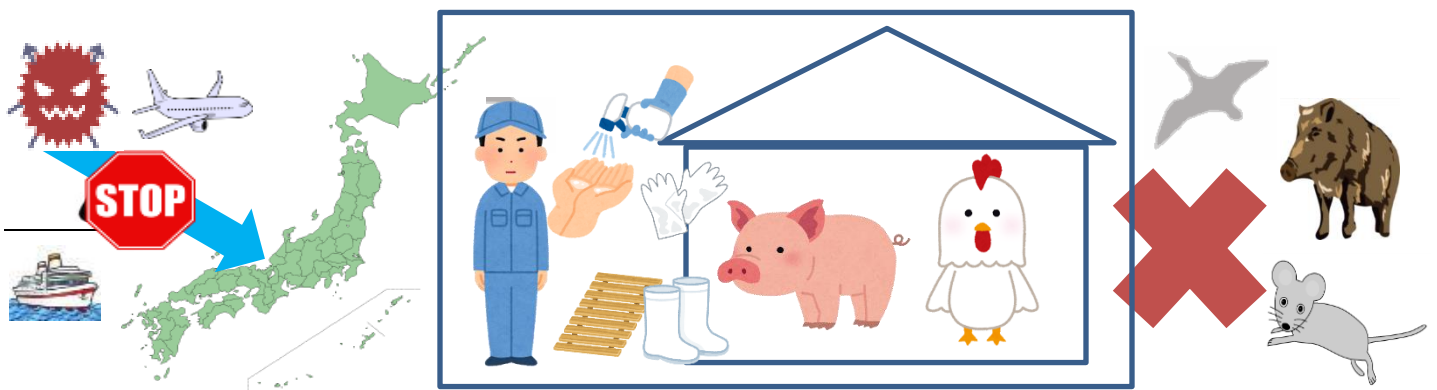
▷海外渡航の自粛

ASF・FMD の発生地域への渡航自粛をお願いします。

▷衛生管理区域及び畜舎内への病原体持込みの防止

- ・必要のない人を立ち入らせず、不要な物を持ち込まない
- ・衛生管理区域や畜舎へ立ち入る場合は、専用の手袋・靴の着用、手指の消毒、物品の消毒等の実施。
- ・野生動物侵入対策の実施。

▷毎日の健康観察、早期発見及び早期通報の徹底



飼養衛生管理基準の再徹底をお願いします。